

鹿島槍ヶ岳カクネ里の雪渓が氷河であることが、学会で正式に認定された。2012年に立山・劔岳の三の窓・小窓・御前沢の三つが氷河として国内で初めて認められてから6年ぶり国内で4例目、長野県では初めてである。氷河は氷体が動かなければ、どんなに大きい雪渓でも氷河とは認められない。白馬大雪渓や劔沢の雪渓が長大でも氷河ではないのだ。

立山・劔の三つの雪渓にも入るのは容易ではないが、カクネ里はそれ以上に厳しいと思う。下の沢から（もちろん登山道などは全くない）か遠見尾根の途中から下るかしかないが、調査団は遠見尾根から入ったようだ。昨年、調査にかかわった大町市の山岳博物館の職員さんから講演を聴いたが、なかなか大変だったらしい。調査団のみなさんは研究者であっても山屋ではないため、機材やルートづくりなどでガイドが貢献した。

低迷する国内観光の目玉にしようと大町市は検討しているようだ。ゴンドラとリフトを利用すれば、登り1時間程度で小遠見山だ。夏のトレッキングルートにもなっていて、ここからもカクネ里はやや斜めから見えるが、もう少し足を伸ばして中遠見まで行けば鹿島槍北壁とカクネ里が正面からバッチリ見える。五竜岳にまだ登ったことがない方は、ぜひ一度アタックしたらいいと思う。それも時期的にできるだけ早いほうが雪がたくさんあって、鹿島槍の双耳峰とピッタリだ。

この冬は、白馬は思ったほど降雪がない。初雪が早かったため、数年ぶりに大雪の年になりそうだとスキー関係者の多くが喜んでいたが、気温が高い日もあって、どんどん積もる状況ではない。スキー場は、早くからオープンし、いまのところ問題はなさそうだが、ときどきドカンと降らないと安心できない。それにしても日本人のスキー・ボードをするお客さんがますます減っている感じがする。外国人ではオーストラリアなどからは増減はあまりないようだが、アジア系が増えている。スキー関係者は、外国人に依存しているといっても過言ではない。昨シーズンは五竜が一人勝ちといわれたが、今季は比較的雪があるため多くのスキー場に客が分散しているようだ。しかし、中小のスキー場は営業がなかなか厳しい。オープンする予定ではなかった佐野坂スキー場は、関係者の努力でなんとかぎりぎりになって今シーズンは営業しているが、リフトは全面運行していないようだし、来シーズンの営業は未定だ。「私をスキーに連れて行って」という時代は過去のものになりつつある。

追記

今日の信濃毎日新聞の報道では、調査に当たった学術調査団が昨日の記者会見で、カクネ里に加え、立山・劔の池ノ谷^{たん くのすけ}と内蔵助も新たに氷河と認められたと発表した。さらに白馬村の唐松沢・不帰沢・杓子沢の3カ所も氷河の可能性が高いと指摘した。調査団長は、「新たに調査して流動が確認されれば氷河と認められる可能性がある」と述べた。これは、かなりのビッグニュースである。

1/19 記